

広報ただみ診療所

「予防接種に、ありがとう」

朝日診療所 医師 もり 森 ぶゆ と 冬人



6月中旬、高齢者向けの新型コロナ予防接種が終わった頃でしょう。5月の報道を見る限り、他の多くの自治体では、住民が予防接種を予約するのも大変で、接種に時間もかかるようでした。

只見町の予防接種計画が完璧とまでは言いません。小さな問題はあったかもしれませんが、ただ、全国で感染が広まる中、町民を守るためには、問題をゼロにした完璧な計画でゆっくりやってはダメだったでしょう。小さな問題がたとえあっても、現場のみんなですこずつ修正しながら早めに接種を進めた今回の予防接種は、多くの町民を救うために適切だったと私は思っています。

私たち医師・看護師が診察するだけでは、残念ながら新型コロナの患者さんを減らす事も、救命率を上げる事も困難です。

医師・看護師・保健師そして事務職も少ない中、他の自治体以上の早さで接種計画を作成し実行してくれた保健福祉課職員を中心としたみなさん、本当にありがとうございます。手伝ってくれた町

外の医師のみなさん、一番大変な実際の接種を担当した看護師のみなさん、ありがとうございます。数日の痛み・熱などを我慢して接種を受けてくれた町民のみなさん、ありがとうございます。

毎日マスクと手洗いを実践するみなさん、遠方の家族と会うのを我慢して電話やオンラインにしてくれたみなさん、学校や職場で感染予防に努めるみなさん。みなさんのおかげで町民が助かりました。本当にありがとうございます。

世界的・全国的には厳しい状況ですが、まずは町内の予防接種が進んで、感染予防をしながら町内での平穏な暮らし・仕事・小規模な集会が少しずつでき、普通の世の中に戻ることを願います。医療福祉関係者だけでなく、地元の商店、水道・道路・電気・配送などインフラを維持してくれているみなさんのおかげで、今日も普通の生活が営める事に改めて感謝したいです。すべての町民へ、本当にありがとうございます。

地域おこし協力隊として Vol.78

只見町 教育振興協力隊

「私が描く協力隊—ハウスマスターとして」

やまごし かれん 山越 香恋



地域おこし協力隊に着任し奥会津学習センターのハウスマスターを始めてから、早2ヶ月が経ちました。

今回は私が協力隊として取り組みたいことをお話します。それは「人々の思いを可視化し、コミュニケーションのきっかけをつくること」ということです。これは相手が話していることを言葉や記号、表情を組み合わせで描き、発信される複雑な思いを整理することで、お互いの理解を深めるというものです。

例えば「寮のハウスマスター」という仕事について、私の思いを可視化すると右図のようになります。言葉だけではイメージすることが難しいものが伝わりやすくなると思います。

これを自己表現方法の一つとして発信し、只見高校生にとって只見町が「好き」や「得意」を共有、発揮できる場所に、充実した学校生活を送れるようにサポートしていきたいです。

ぜひ、只見高校の生徒だけでなく、只見町の皆さんとも思いを描きながら対話したいと思います。そして、協力隊の任期中に只見町の皆さんのことや皆さんが考える町への思いを、描けるようになりたいです。

